

***1957～1958年頃のネガアルバムを発見—その7— (シュミット観測室)**

アーカイブ室新聞第492号(2011年6月2日)に「堂平資料の中に1957～1958年頃の資料価値のあるアルバムを発見(1958年4月19日の日食記録写真)」という記事を書いた。続いて、1957～1958年頃のネガアルバムを発見のシリーズを第493号に—その2—(水晶時計、報時室など)、第494号に—その3—(8吋、PZT建屋、子午環など)、第496号に—その4—(正門、本館、10mパラボラアンテナ)、第497号に—その5—(干渉計、子午環、8吋、モノクロ)、第502号に—その6—(三鷹の極望遠鏡)を書いた。

この時点で、アーカイブ室新聞の読者でもある元東京天文台職員の香西洋樹氏からこの「1957～1958年頃のネガアルバム」は自分が撮影し、ネガアルバムにしたものだという連絡をいただいた。なぜ香西氏が作成したネガアルバムが堂平観測所資料の箱の中にあったのかは謎のままだが、製作者は判明した。

第502号の—その6—(三鷹の極望遠鏡)の中で、第267号の写真1「三鷹時代の極望遠鏡」の写真は、この一連の写真と微妙に違う。よく見るとどうも同じものではないようだ。と書いた。第267号の記事に使った極望遠鏡の写真は関口直甫氏が撮影したもので、第502号の極望遠鏡の写真は香西洋樹氏が撮影した別の写真であったことも判明した。

今回は、第502号からの続編で—その7—(シュミット観測室)である。それらの写真を並べたサムネイルが写真1である。

これらの写真は、アメリカのNASAが持ち込む人工衛星追跡カメラであるベーカー・ナンシュミットカメラを入れるために建設される様子を撮影したものである。撮影年月日が書かれており1957年8月3、15、19日とある。1957年は筆者が東京天文台に入る4年前のことである。当時、人工衛星打ち上げはアメリカとソ連(現在のロシア)がしのぎを削って開発競争しており、世界最初の人工衛星スプートニクが打ち上げられたのは1957年10月4日のことである。そしてアメリカが最初の人工衛星エクスポローラー1号の打ち上げに成功したのは1958年1月31日であった。

ということは、この人工衛星追跡カメラであるベーカー・ナンシュミットカメラ観測室の建設はソ連のスプートニクの成功に先駆けて始まっていたことになる。アメリカの要請を受けて観測主室の建設を行ったのであろうが、素早い対処であったと思われる。当時はこんなに物事が素早く進められていたことに驚きを禁じ得ない。

当時の東京天文台の三鷹には天文時部、子午線部、天体掃索部、太陽電波部、太陽物理部、測光部、分光部、天文計算室という組織があり、人工衛星追跡は天体掃索部が担当していた。香西氏はこの天体掃索部に所属していた。当時の天体掃索部の部長は広瀬秀雄博士であった。



写真1 シュミット観測室のサムネイル

写真2 が建設中のシュミット観測室である。筆者の記憶では、現在の東京大学理学部天



写真2 建設中のシュミット観測室

文学教育研究センターの建物のある場所で、太陽単色写真儀のさらに奥まった少し西に立っていたと記憶している。この建物はスライディングルーフでドームではなかった。ベーカー・ナンシュミットカメラは昭和 37 年(1962 年)に開所した堂平観測所に移設された。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp